

総合調査設計株式会社
Sogo-Chosa-Sekkei Co.,Ltd. presents

あの現場は今・・・?

back to the spot



ロードオアシス高殿（大阪市旭区）～平成7年完成



9年ほど前に設計を担当した現場を訪ねてみました。

大阪市ロードオアシス整備事業（道路事業）により平成7年に整備された、旭区の住宅地にある100㎡足らずの小さな広場です。

まずはシンボルツリーのハナミズキが目を引きます。

当時九州からはるばる運ばれてきたもので、「この木1本でベンツが買える」といわれたシロモノです。

（今の時代では、ちょっと無理か？）





今も元気に花が咲き乱れ、まずは一安心。ゴミの散乱もなく、地元の方が定期的に掃除をしている様子に二安心。

ただ、広場の一角がゴミステーションとして利用されており、ほのかな生ゴミの香りがちょっと残念でした。各部の状況については、次のような感想でした。

舗装材：エコロジーへの配慮から、古タイヤを再利用したゴムチップ製シート(厚さ約 2cm)を採用しました。

当初の緑色から原料の古タイヤ色にむらなく色落ちており、むしろ当時よりシックに感じられました。劣化や汚れもさほど気にならず、足触りもまずまず。

一部、アスファルトによる復旧跡を発見しました。同材料による修復が困難だったものと思われます。特殊な材料を用いる場合は、「メンテに留意すべし」と改めて肝に銘じる次第です。



ストリートファニーチャー：ベンチ、パーゴラ、植樹柵の化粧などに使用した木材は、腐食等もなく概ね良好でした。

化粧板の一部がはがれかかっていたましたが、早めに補修すれば傷は浅くてすみそうでした。(自分で補修に来ようかな・・・)

釘などで落書きが刻み込まれていましたが、子供たちの思い出の証として、それも良しと考えるべきかもしれません。



植栽：よく言えば「生育良好」、悪く言えば「野放し」といった印象です。当初は、マツバギクなどが彩りを添えていましたが、今ではうっそうとした緑一色。

コンセプトの一つに、「みんなの庭を、みんなで育てる」というのがありましたが、どうも思惑どおりにはいかないようです。

都心にあっては、公園や道路などの緑化スペースを花壇や庭として住民に維持管理を委ねるような施策があってもよいのでは、と常日頃感じています。

今回の広場も、当時のそんな思いから、「みんなの庭をつくる」という発想に至りました。計画時に地元のみなさんと意見交換するなど、もう少し相互理解を深めるべきであったと反省しております。

